

中等教育学校第2学年美術科学習指導案

1、題材名

イメージを重ねて

2、題材の目標

(1) 美術科としての目標

○ダブルイメージによる美術表現を通して、表現様式の効果と美術的な文脈に親しみ、鑑賞者と共に自分の表現について議論することができる。

(2) 汎用的スキル

○表現の過程において、感性を軸に表現内容や方法と向き合い、美しさや新しい価値を生み出すことができる。(感性・表現・創造の力)

(3) 態度・価値

○人それぞれが多様な考えや意見、価値観を持つことを理解し、他者を受け入れる態度や共感、敬意や感謝の心を持つことができる。(他者に対する受容・共感・敬意)

3、生徒の実態

ダブルイメージについて「新しい表現の能力を手に入れた」と振り返る生徒は多く、発想が豊かな経験の一つとして取り組んでいる。ダブルイメージが現代の広告へ応用されていることを理解しており、それは実社会と関係している。本時でのリサーチは、キュレーションの実践(前題材)がベースとなっている。また比較研究は第1学年のアートフィールドワークから続けている。中等教育学校の特性として高等学校も含めた6年間のカリキュラムの2年次となる。また、国際バカロレアの探究的な学習に慣れてきている。

4、題材について

①教科から見た特性

ダブルイメージによる表現は、シュルレアリスムやダダイズムなどが有名であるが、多くの本校生徒が話す通りポスターなどのデザインにも発展し活用されている。イメージを重ねることで、多様な解釈が生まれ、作者と鑑賞者との議論が構築的になる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

イメージを重ねて表現した美しさや価値は、表現者の自己表現の成果である。それゆえ、作者が「感じ取った」とされる個人的な受容が基になる。またその感性は、自らの主題や表現方法を選択し活用するための自己判断の規準となる。(感性・表現・創造の力)

美術科全般において「人それぞれが多様な考えや意見、価値観を持つことを理解し、それが自分と異なる人も受け入れる態度や、相手の気持ち(喜びや感動、悩み、苦労など)に共感したり、敬意や感謝の心を持ったりすること」は最も基盤となる態度・価値である。特に本題材で生徒は議論的な展開にチャレンジするため、互いに認め合うことが大切である。(他者に対する受容・共感・敬意)

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て(全10時間 本時 /10時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・ダブルイメージの理解。 ・「イメージが重なっている」と思われる3美術作品の調査、鑑賞、分析。	○感性・表現・創造の力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○自分の感性に合わせて作品を調べる。 ○作品を批評するにあたり、倫理的な捉え方や考え方、言葉使いをする。
第2次 (6時間)	・アイデアスケッチ ・プランニング ・実制作	○感性・表現・創造の力	○感性を軸にしながらも、自分で作品に発展できるよう美術の形式的要素を用いる。

第3次 (2時間)	・自分で問いをつくる ・鑑賞者と一緒に問いをつくる ・議論的な問いをもとに学習を振り返る。	○他者に対する受容・共感・敬意	○作品を互いに批評するにあたり、倫理的な捉え方や考え方、言葉使いをする。
--------------	---	-----------------	--------------------------------------

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・アイデアスケッチを美術の形式的要素により発展させることができる。
- ・アイデアを実現するための計画や準備ができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○ 3つの美術作品の比較、分析を振り返る。 ・どの作品にも共通していることがある。 ・自分のテーマに合う考えや方法のヒントが見つかった。 ・1つのことに2つのイメージある場合と、2つのことが同時に存在して1つのイメージとなっている場合がある。	◇ベン図中で自分のイメージやテーマにあう領域を見つけて色を塗り、自分に合った考え方や表現方法を取得する。(感性・表現・創造の力) ◇比較、分析の過程において、作品や作者について倫理的に取り扱う(他者に対する受容・共感・敬意)
展開 45分	“アイデアを具現化する”には？ ○アイデアスケッチでイメージを視覚化する。 ・思いついたアイデアをスケッチブックに描いた。 ・アイデアはあるのだが、何を対象にして表現したら効果的だろうか。 ・マインドマップから始めた。 ○違った視点でアイデアスケッチを発展させる。 ・描いたアイデアスケッチ同士を合わせてみた。 ・2つのことを同時に存在させてはどうだろうか。 ・いろいろと描いたけれど、実際には○○のアイデアを中心にしたい。 ○実制作に向けて「美術の形式的要素」を用いて見通しを立てる。 ・どのような色彩にしようか。 ・どのような形にしようか。 ・どのような構図にしようか。 ○第2次(6時間*本時を含む)の計画を立てる。 ・下描きはいつまでに、どの程度行うのか。 ・どのような色から使い始めるのか。 ・これまでの授業で生かせることは何か。 ・実現するために必要な知識や技能は何か。 ○次回までの準備を計画に付け足す。 ・ポスターカラーの色をチェックしておくことにした。 ・鉛筆の濃さを調節して下書きを描こうと考えた。 ・描きたい対象の具体的な姿を知りたいので、写真を持参することにした。	
		◇アイデアスケッチの初期段階では、言葉や記号を可としている。アイデアが具体的な形や色彩になっていくに連れて、参考写真や写実的な描写の活用を取り入れている。(感性・表現・創造の力) ◇アイデアスケッチを発展させるために、「アイデアを組み合わせられるか」「今はAが主であるがBにするとどうか」伝えるためにはどこまで削ることができるのか」について考える時間をとる。 ◇既習事項、色彩、形、構図のいろいろを活用する。(感性・表現・創造の力) ◆〔共通事項〕を用いてアイデアスケッチを作品にするための検討をしている。 ◇1年生の頃から継続している通り、スケジュールと振り返り、改善についての欄をスケッチブックに自分でつくる。(感性・表現・創造の力) ◇前年度までに作成した例示作品を見て、必要なものをリストアップする。(感性・表現・創造の力)

●記録映像 無し